

福島県沖のタチウオ

令和3年9月10日

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部



図1 底びき網で漁獲されたタチウオ

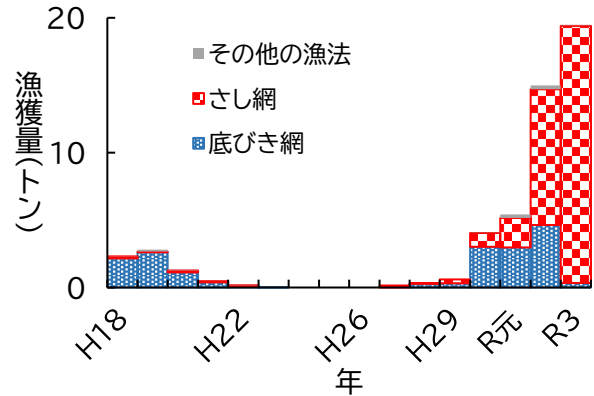


図2 タチウオ漁獲量 (全県、全漁法)

(令和3年は7月末までの速報値)

タチウオ (*Trichiurus japonicus* (Temminck and Schlegel, 1844)) は北海道全沿岸～九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、東シナ海大陸棚、渤海、黄海の大陸棚域に生息するとされています¹⁾。

福島県でのタチウオの漁獲量は近年増加傾向にあり、令和3年(7月末現在)の漁獲量は19トンで平成18年以降最も多くなっています(図2)。漁法別では、震災前は底びき網による漁獲が主体であった一方、令和2、3年の漁獲はさし網が主体となっています。漁獲は県北相馬双葉地区が中心であり、最も多いときは1週間に8トンの水揚げがありました²⁾。隣接する宮城県においても、タチウオの漁獲は増加傾向にあり、平成30年以降は100トンを超える漁獲があったようです³⁾。

また、いわき丸の着底トロール調査では、全長130cmを超える大型の成熟卵を持つ雌個体(図3)が出現しており、アカムツと同様(R3漁海況速報 No.30 参照)、福島県沖で再生産を行っている可能性があります。



図3 いわき丸で採捕されたタチウオ(成熟卵を持つ雌個体)

【引用文献】

- 1) 中坊徹次,2013. 日本産魚類検索 全種の同定第三版 II. p.1647
- 2) 福島県水産海洋研究センター R3 漁海況速報 No.28
- 3) 宮城県水産技術総合センター,2020. 新・みやぎ・シーメール第35号